

## 秋の摂津味を散策 芥川ウォーキングを実施しました

令和3年10月30日

晴天に恵まれた10月30日、芥川ウォーキングを実施しました。ルートは、塚脇橋バス停からクヌギ谷を通り、摂津峡の白滝まで歩くコースでした。例年、芥川ウォーキングは広く市民も対象に参加を募集していますが、今年はコロナ禍であることを考慮し、ネットワーク芥川倶楽部のメンバーのみで行いました。参加者は松愛会、芥川倶楽部を合わせて計16人でした。

今回のウォーキングでは、山の植物観察をテーマに散策を行いました。コースの途中のポイントにおいて、樹木の名前や特徴、よく似た木の見分け方など、その周囲に咲く草花についての説明を聞きました。

また、第2キャンプ場では、ドングリの種類や特徴について詳しい説明がありました。普段何気なく見ている樹木でも様々な知識があるとまた違った発見があることがわかり、楽しいウォーキングになりました。

説明はとても分かりやすく、たいへん好評でした。風過ぎ、白滝で記念撮影の後、解散しました。



植物の説明



コウヤボウキの花

### 大阪府茨木土木ホームページに「芥川の魚道」掲載

大阪府ホームページで、芥川の様々な「小わざ魚道」を紹介しています。位置図のほか、細部の写真も見られます。印刷すればハイキングマップにもなります。  
[https://www.pref.osaka.lg.jp/ibarakidoboku/chiiki/akutagawa\\_gyodo.html](https://www.pref.osaka.lg.jp/ibarakidoboku/chiiki/akutagawa_gyodo.html)

田利用水井堰、川島井堰、JR橋梁下流落差工、芥川1号井堰(津之江公園下流)、芥川頭首工、門前橋下流落差工、正恩寺橋下流落差工、下井手堰、清福寺落差工

背景地図 国土地理院ウェブサイト

あなたと自然が触れ合える芥川の情報誌

# 芥川水辺だより



Vol.40  
2022年  
春号



## 今年は若い力も集結!! アユの産卵場整備を行いました

令和3年10月23日

秋晴れの晴天にも恵まれた10月23日に城西橋上流でアユの産卵場整備を行いました。今年も芥川に遡上したアユが芥川で育ち、新たな命を育ててもらうために産卵に適した環境を整備してあげることが目的です。参加者は、アドバイザーの綾先生、松愛会、芥川倶楽部、たかつき環境市民会議、TKK、高槻北高校自然科学部、高槻第六中学校自然観察同好会、摂南大学の総勢23人の参加がありました。

まずは、スコップや備中くわを使って川の中で流量が多い部分を水路形状に掘り下げていきます。川の中で1列に並んで、幅3mで膝丈程度の深さになるよう土砂を取り除いていきました。掘り出した土砂は水路の両側に撒いていきました。次に、水路の川床を深さ10cm~20cmまで耕し、上流から下流に向けて川の流れによって砂泥を流し、石の間にすき間を作っていました。

初めに産卵場整備の目的と作業内容について説明を行い、その後作業を開始しました。アユが卵を産むために適した川底の環境としては、川底の石と石の間にすき間があり、フカフカと柔らかい状態になっていることが必要です。

今回は、中高生や大学生などの若い世代のメンバーと一緒に作業を行うことで、アユの遡上や川の環境についての理解を深めることができ、今後もこういった活動を広めていきたいです。

編集 芥川・ひとと魚にやさしい川づくりネットワーク~愛称: 芥川倶楽部~  
 発行 令和4年(2022年)3月 高槻市都市創造部下水河川企画課 TEL 072(674)7432

芥川倶楽部では、川づくりや各種イベントに参加してくれる方を募集しています。イベント等の情報は下記の芥川倶楽部ブログにて、紹介しておりますので、ぜひご覧ください。  
 ホームページ: <http://akutagawaclub.web.fc2.com/> ブログ: <http://akutativ.blog85.fc2.com/>  
 E-mail: [akutagawa0726@yahoo.co.jp](mailto:akutagawa0726@yahoo.co.jp)

~~~~芥川はみんなの財産です。みんなで守り、育てていきましょう。~~~~

●芥川・ひとと魚にやさしい川づくりネットワークは河川協団(国(近畿地方整備局)第2号)に認定されています●



## アユの卵を探そう!!を実施 卵は残念ながら見つからず…

アユの産卵場を整備してから2週間後の11月6日、果たしてアユは産卵を行ったのか？整備した場所と同じく城西橋上流においてアユの卵探しを行いました。参加者は、松愛会、芥川倶楽部、たかつき環境市民会議、TKK、高槻北高校自然科学部、高槻第六中学校自然観察同好会、摂南大学の総勢23人で、今回も前回同様大勢の中高生、大学生の参加がありました。

卵探しは、川底の石を拾いあげ、ひとつひとつの石に卵が付着しているか探します。卵の大きさは直径1mmほどで、中に黒い小さな眼があるのが特徴です。

みんなで川の中から石を拾い上げ、必死になって探しましたが、残念ながら今回は卵を見つけることはできませんでした。

夏から秋にかけて芥川のいろいろな場所で成長したアユの姿を確認することはできませんし、また仔魚調査においては数は少ないものの、何匹かの仔魚を採取することもできています。産卵に適した環境であろう場所で卵を探していますがなかなかその実物を見ることはできません。芥川のアユはどこでその新たな命を育てているのか、これからも調査を続けていきたいと思えます。

## 2021年アユ仔魚調査結果

2021年のアユ仔魚調査は、下流定点の次郎四郎橋と、城西橋上流の産卵場整備地点の上流側と下流側の計3か所で行いました。調査方法はプランクトンネットを使い原則19時から21時まで、30分ごとに20分間サンプリング、調査期間は11月2日～12月14日の火曜日と土曜日です。期間中、雨の日が多く、11/9、11/23、11/30、12/7の4日が欠測となり、十分なデータが得られませんでした。

今年の傾向としては、次郎四郎橋地点で8回測定のうち11月13日に1匹確認できたのみで、非常に少なかったことです。これは上流からの仔魚の流下が阻害されている可能性と、増水時に速やかに流下した可能性の両方が考えられます。城西橋地点では、整備した産卵場の上流側で16匹、下流側で255匹が確認されました。同日サンプリングで比較すると上流で16匹、下流で127匹と、産卵場整備の効果が確認できました。

ただ、調査初日11月2日の118匹が最大になっており、産卵場整備直後に産卵したと考えられますが、この日は産卵場上流側のデータがないので、産卵場整備直後の仔魚と断定できないのが残念です。



令和3年11月6日

## 石の魚みちのメンテナンス報告（川島井堰下流落差工） 河川管理者と市民の協働実施！

川島井堰下流落差工に設置した『石の魚みち』では、令和3年8月の増水時に流木などの落下物により減勢プール周りの石が、数か所抜け落ちてしまいました。そのため水の流れが激しくなり、魚がのぼれない状態になったので、メンテナンスの必要がありました。今回は河川管理者である大阪府と市民の協働作業ということで、茨木土木事務所、芥川倶楽部、あくあびあ芥川、松愛会の計15人参加し作業を行いました。メンテナンスでは石が剥離しないよう石の背面に鉄筋を埋め込み、周囲をコンクリートで固定する作業を行いました。

石の2枚の写真はメンテナンス前後の水の流れです。上の写真では上部の石が抜け落ちているため、右端の水量が極端に増えています。これではこれから魚はのぼれません。

一方、メンテナンス後は水量が調整され、魚は泳ぐスピードに応じてルートを選び上流へのぼることができるように修復できました。



作業の様子



メンテナンス前の水の流れ



メンテナンス後の水の流れ

## デルタフリー魚みち（門前橋下流落差工）

令和4年1月23日

1月23日、芥川倶楽部のメンバー8人で桜堤公園にあるデルタフリー魚道の補修を行いました。

芥川の桜堤公園付近では最近の河床工事により水位が下がり、デルタフリー魚道の下流部はプールがなく、水が走っている状態となり、魚が上流へのぼることができません。



下流端に石を配置しコンクリートで固定



補修後

このため下流端に高さ10～15cmの石を配置し、コンクリートで固定してプールを作る補修作業を行いました。その結果、プールができて魚がのぼることができるようになりました。